

福島県環境基本計画の指標について

資料 2

福島県環境基本計画の指標の変更について、下記のとおり御報告いたします。

指標名	現況値 (計画策定時)	目標値 実績値		R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	R 11	R 12	見直しの理由・目標値の設定根拠
【モニタリング指標3】 原子力発電所周辺の空間 線量率	5.19 μSv/h (R元)	目標値	変更前	現況値以下	現況値以下	現況値以下	現況値以下	現況値以下	現況値以下	現況値以下	現況値以下	現況値以下	【見直しの分類】 目標値の上方修正 ○目標値の見直しの理由 R4～R6の実績値が目標値を継続して下回っているため、目標値の上方修正を行う。 ○見直し後の目標値の設定根拠 放射性物質の自然減衰等により、空間線量率の減少が見込まれるため、前年度値以下を目指すこととした。 県内原発の廃炉作業の進展やトラブルの発生等によって、新たな放射性物質の放出による空間線量率の上昇がないよう廃炉作業の監視等に継続的に取り込んでいく。
			変更後	現況値以下	現況値以下	現況値以下	前年度値 以下	前年度値 以下	前年度値 以下	前年度値 以下	前年度値 以下	前年度値 以下	
		実績値	4.05μSv/h	3.92μSv/h	3.67μSv/h								

<対応する部門別計画（他部局）> 福島県安全で安心な県づくりの推進に関する基本計画

指標名	現況値 (計画策定時)	目標値 実績値		R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	R 11	R 12	見直しの理由・目標値の設定根拠
		変更前	変更後										
【通常指標10】 森林整備面積	6,004ha (R2)	目標値	変更前	(6,300ha)	(6,500ha)	(6,700ha)	(7,000ha)	(7,200ha)	(7,400ha)	(7,600ha)	(7,800ha)	8,000ha	<p>【見直しの分類】 目標値の下方修正</p> <p>○目標値の見直しの理由 現指標である森林整備面積(※)は、原発事故以降、放射性物質の影響から大きく落ち込み、その回復に向けてふくしま森林再生事業などにより「間伐」を中心とした施業を実施してきた。 近年、終戦直後や高度経済成長期に造林された森林資源が充実するとともに、新たな大型製材工場の稼働・計画等により、県産材の需要が拡大していることから、「主伐」による素材生産量が増加傾向にあり、主伐の対象範囲は、これまで間伐の対象として森林整備面積に含まれていた高齢林(51～60年生)にまで拡大することが見込まれる。 このため、県産材の供給拡大と次の世代となる森林の適正な維持に向け、これまでの間伐中心の施業から、再造林を含む人工造林の強化へと転換を図ることとし、森林整備面積全体の目標値を見直すもの。 ※県内民有林(私有林及び公有林)の人工林等で行う「人工造林」「下刈り」「除伐」「間伐」等の森林整備を単年度に実施した面積を合計した値で、主伐(立木を全て伐採して木材生産を行う)は森林整備面積に含まない。</p> <p>○見直し後の目標値の設定根拠 木材需要の高まりから主伐が増加しており、これまで森林整備面積の大半を占めていた間伐面積は減少(R12の推定値を半減)が見込まれるが、次世代の森林資源を造成するため、再造林を含む人工造林等の支援強化や低コスト化を図り、人工造林等面積を増加(R12の推定値を1.5倍)させる。そのため森林整備面積が全体的に減少するものの、R12に向けて毎年一定割合で上昇させる考え方で目標値を設定した。</p>
			変更後	(6,300ha)	(6,500ha)	(6,700ha)	(4,700ha)	(5,000ha)	(5,200ha)	(5,500ha)	(5,800ha)	6,100ha	
		実績値	5,325ha	4,754ha	4,583ha								

※福島県環境基本計画においてはR4～R11の目標値を定めていませんが、上位計画である福島県総合計画における目標値を()で記載しています。

<対応する部門別計画(他部局)> 福島県農林水産業振興計画

指標名	現況値 (計画策定時)	目標値 実績値	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	R 11	R 12	見直しの理由・目標値の設定根拠
【通常指標34】 イノシシ、シカの年間捕 獲頭数（シカ）	2,353 (R2) 頭	目標値	変更前	1,400頭 以上最大限	1,400頭 以上最大限	1,400頭 以上最大限	1,400頭 以上最大限	1,400頭 以上最大限	1,400頭 以上最大限	1,400頭 以上最大限	1,400頭 以上最大限	【見直しの分類】 目標値の上方修正 ○目標値の見直しの理由 生息数、生息域の急増期であり、減少傾向に転じるまで捕獲強化が必要 なため、目標値の上方修正を行う。 ○見直し後の目標値の設定根拠 令和6年度の捕獲実施後の生息数を基準に、県内のシカ生息数が減少傾 向に転じる年間捕獲数を試算して設定した。
			変更後	1,400頭 以上最大限	1,400頭 以上最大限	1,400頭 以上最大限	1,400頭 以上最大限	3,500頭 以上最大限	3,500頭 以上最大限	3,500頭 以上最大限	3,500頭 以上最大限	
		実績値	1,836頭	1,919頭	3,472頭							

※1 「頭以上最大限」は、記載の目標頭数の捕獲を確保しつつ、最大限の年間捕獲頭数を旨すことを意味します。

※2 福島県環境基本計画においてはR4～R11の目標値を定めていませんが、上位計画である福島県総合計画における目標値を（）で記載しています。

<対応する個別計画> 福島県二ホンジカ管理計画（第3期）